

生徒たちが性のことについて適切な知識と意識を持ち、自分らしく、より豊かな人生を送るための人権教育として、この度、中学1年生を対象とした講演会を開きました。

チャイルドラインかごしま代表の山崎眞子様を講師にお迎えし、「性のこと学んで、素敵な人生を～自分を大切に・ひとを大切に～」をテーマにお話いただきました。

生徒たちは、性に対する適切な知識と人権意識を身につけることが、自分自身を守り、他者を尊重し、一度きりの人生を素敵に生きるために不可欠であることを深く理解しました。

以下、その講演の要旨です。

1. 知識の欠如がもたらす危険性

性に関する無知や誤った情報に基づく行動は、予期せぬ妊娠、性感染症、そして性加害者や性被害者となってしまうなど、取り返しのつかない事態を引き起こす危険性があることを学びました。特に、インターネット上の不適切な情報(アダルトサイト等)は作られた世界であり、それを真似することは犯罪につながり、人や自分を深く傷つける行為であることが強調されました。

2. 大切な「透明バリア」(境界線)

自分と他者の間に存在する「透明バリア(境界線)」について学びました。これは、自分の体、考え方、持ち物を守るための大切な知恵です。自分の境界線が破られたり、嫌な気持ちになったりした時は、自分の気持ちを優先し、「嫌な時は嫌と言って良い」こと、そしてその場から逃げて良いことを確認しました。また、境界線は誰にでも存在し、他者と自分が同一の感覚を持っているわけではなく、相手の感覚を尊重すべきということも学びました。

3. 「同意(コンセンスト)」の重要性

他者と心地よい関係を築くためには、「同意」が不可欠であることを学びました。相手の気持ちを尊重し、心から望む「YES」の確認がなければ、どんな行為も相手にとって辛い体験となり、性的嫌がらせや人権侵害になり得ます。

4. 被害防止と相談先

自身の体には胸や性器、お尻などの「プライベートパーツ」があり、守る権利があることを確認しました。それは他者にとっても同様であることも学びました。

また、痴漢、盗撮、SNS 上での不適切な写真の要求など、身近にある性的嫌がらせや犯罪の例を知り、被害に遭った際には「内緒にせず」「信頼できる大人(複数人)へ相談する」ことが重要であると学びました。

